

古地図の想像力を満喫する稀観の機関誌

古地図研究

全6巻・別巻1



コロンブスの大航海図、ナポレオンの大陸征服図、江戸時代の道中案内、明治時代の観光名所案内等……
古地図は語る人々の夢とロマン

残部
数組

(2024.1)

監修 日本地図資料協会

学術資料出版

大空社出版

www.ozorasha.co.jp

*この案内は本書発刊時のものです。
(大空社 1993年)

刊行のことば

『月刊古地図研究』は、わが国で唯一の「地図史」、いわゆる「古地図研究」の研究団体である「日本地図資料協会」が発行している機関誌です。

創刊は昭和四五年（一九七〇）三月。『塵も積もれば山となる』の譬の通り、僅か二頁の『月刊古地図研究』も、二〇年経つと三〇〇〇頁に及ぶ大冊となりました。

わたしは「古地図とは、歴史の集積回路」と明言していますが、一枚の古地図には無尽蔵の情報量が収斂されています。例えば描かれた地図で当時の社会・人々の暮らしの姿をビジュアルに窺うことも出来ますし、その地図作製の目的を追及するだけでも、当時の社会構造、政治、経済、さまざまな人間の息づかいがリアルに浮かび上がってきます。それは古文書など文字で書かれた文献だけでは知ることができなかった、もうひとつの隠された歴史の貌が鮮やかに現われてきます。

古地図研究というと、なにか重々しく、取っつき難く感じられますが、古地図を読み取り、千変万化の切り口で、いかに刻んで行くか！という同学の士の啓蒙的な小論集です。

後学の士への礎石となれば幸いです。

日本地図資料協会会長 師橋辰夫



未知へのワンダーランド!!

地図研究を推進する 大きな存在

時宜を得た刊行

推薦します

学習院大学名誉教授 児玉幸多

地図は政治的にも経済的にも重要な意味を持つものであるから古くから作成されてきた。しかし日本では地図が多産されるのは印刷術が進歩した近世になってからが圧倒的である。もっとも印刷されないものにも、幕府が諸藩に作らせた「国絵図」や伊能忠敬の「大日本沿海輿地全図」の如きものもある。これら多量の古地図についての研究を進めてきたのが、師橋辰夫氏を中心にした日本地図資料協会である。その研究の結果や古地図の紹介・解説などをして公刊してきたのが「古地図研究」で、既に三百号に近づきつつある。今回その二百号までを複製刊行されるということである。古地図に盛り込まれているものは、地理学者にはもとより、歴史家にとっても文学者にとっても貴重な資料である。また毎号添付されている一枚物の地図も合せて一巻にまとめられるというから、一層興味深いものになるであろう。来年はドイツで日本の地図展が開かれる由、時宜を得た刊行というべきである。

四日市大学図書館長 朝倉治彦

地図の研究は、戦後一変したと言えよう。しかし、どの時代の地図でも同様だとは言えない。大きく分けて、中世以前と近世以後とに分けて考えるのがよいと思う。

荘園の地図などは、戦前から着手されて、その調査の歴史は長い。しかし、他の地図はあまり重んじられなかった。これが戦後になって、総じて活潑となり、地図から、多くの内容を読みとる方向へ一大躍進している。

近世以降も調査は従来からあったが、限定した範囲内で表立らずに行なわれてきたと言つてよい。戦後の調査に拍車をかけたのは、複製が出廻って、手近かに見ることができるようになったことであろう。地方史の研究も、各種の地図が紹介されたことも一因であろう。いずれにしても、近世以降の地図は、整理の進行中であることは間違いない。

大空社が企画された「古地図研究」は、右の近世以降の地図を主な対象とした研究雑誌で、今日まで果たされた役割は、広大なもので、たえず地図研究を推進してきた大きな存在であったし、現在も進行中である。

ここに、索引つきで、二百号まで、一括複製する意義成果は、まことに多大であり、感謝にたえない。今後の地図研究を、さらに進展すること疑いないと信ずる。

海外では早くから着目

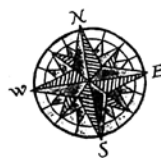
駒沢大学教授 南和男

「月刊古地図研究」は、一九七〇年（昭和四五）の刊行以来、現在二七九号（平成五年五月）を数える。大学や学界等の機関誌でもないのに、驚くべきことである。



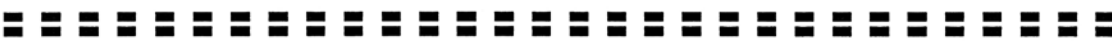


池上長栄山本門寺略図 (第31号添付図)



古地図で探る、

550 BC
バビロニアの世界図



古地図への熱いまなざし

その理由を一言にして言えば、内容の多彩さにあるといえよう。従来の古地図集には見られない多種多様さである。まさに古今東西、都市に片寄ることなく、日本国中満遍なく及んでいる。それも観光地図の類にいたるまで収録されている。そこには官撰地図にはない庶民のいきづきが感じられるのである。また同誌には貴重な記事も少なくない。

数年前、米国の某大学より創刊号から揃えたい旨の要望があったと仄聞している。海外では早くより着目されているのである。古地図に関心を持つ人々に、広くおすすすめしたい。

神戸市立博物館学芸員 三好唯義

博物館という場で古い地図とかかわっているが、日本の古地図は欧米諸国のそれと比較して、どうにも気の毒である。展示資料としても研究資料としても、その存在が正しく評価されているとは思えない。膨大な研究業績が存在する欧米諸国は、その真価を認識しており、その点だけでも日本の古地図は気の毒としか言い様がない。古地図への関心度は残念ながら薄いのが、文化遺産に対する害としては事故や天災といった物理的害より、自らの無関心の方が罪深いのではなからうか。

現在の日本で、その無関心に立ち向かっているのが『古地図研究』だろう。そこには古地図への熱い眼差しと、高度な研究姿勢が貫かれている。その創刊は一九七〇年三月なので、その歴史は四半世紀になろうとしている。継続は力なりであるが、このような地道な努力こそがその無関心の「無」の字を取る最良の道だと信じている。二〇〇号複刻はその強力なインパクトとなろう。『古地図研究』のますますの発展と継続を望むものである。

東海道五十三駅並伊勢参宮道中図 (第142号添付図)



* この案内は本書発刊時のものです。
(大空社 1993年)

『古地図研究』添付・古地図（原寸） 主な収録目録

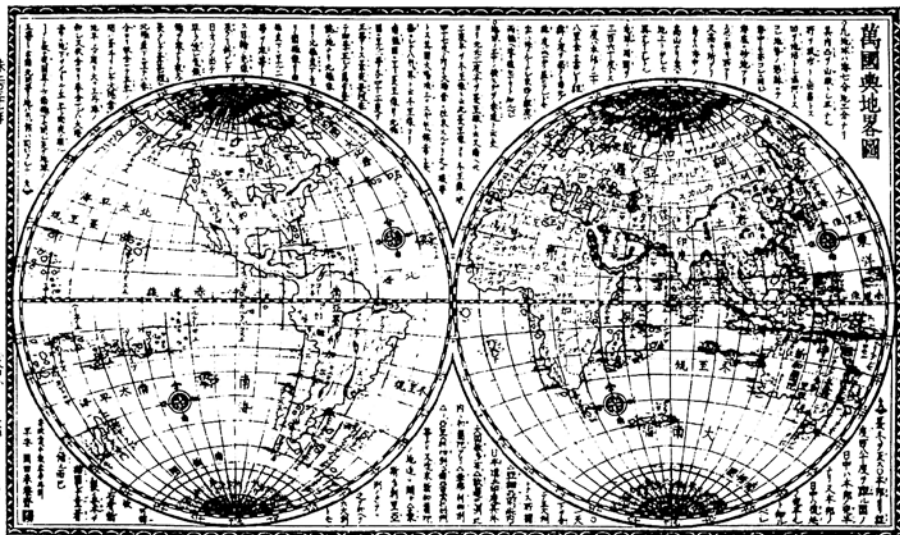
continet vnam partem nostre habitabilis. I. medietatem: alie du ptes. I. affrica. I. europa. aliam medietatem sunt foris. Inter has autem partes ab oceano mare magnum progreditur. cuius inter locos quatuor ptes si-
ni duas partes orientis. I. occidentis quod brudas in vna crivilla in alia du affrica. I. europa. Sic autem
divisum post bolum filii. I. ceter quos. Item cum posteretur sua aliam. I. apert europa. du aru aff-
ricam possederunt. vbi dicit glo. super ier. i. e. super libro iheralimo. primo. Item dicit i. molina. Aff-

古今東西の多彩な古地図／収録点数 176 点

159 158 157 156 155 154 153 151 150 149 148 147 146 145 144 143 142 140 139 138 137 136 135 134 133 131 130 128 127 126 124 122 121 120 119 118 117

JAPON
旗本松平氏屋敷
暗射地球全圖
インド及シナ圖 作・トウリール（一七〇五年）
（嘉永の頃）
大日本國圖
扇面鳥瞰京都圖
日本橋南北浜町八丁堀辺圖
富士山・須走口圖
鷹ヶ峰光悅村古圖 写と復元圖
洛中洛外之絵圖
万国輿地略圖
行基圖複製圖
秩父札所案内絵圖
万国山海通覽分圖
四國順拝御土産絵圖
大阪神戸鐵道線平面概略圖
ポーカッチのアジア圖（ベニス）
水戸市街改正全圖
扇面鳥瞰京都圖
従日光山諸方道行程附
東海道五十三駅並伊勢參宮道中圖
世界圖（作ヴォーゴンデイ）
全國鐵道汽車賃金表
東海道連環絵圖
加藤清正奉納大神鏡
年玉両面道中記
福岡市街圖
新庄
東京浅草金亀山觀世音境内及公園之真圖
江戶・東京大火延焼ノ方向圖
千葉市街鳥瞰
播州・大和廻り、高野廻り、若浦廻り、室津ヨリ
名張廻り、多賀廻り、京都マデ道中記
地底鯨之圖
伊香保温泉名所絵圖
舞鶴港之圖
引札伊勢道中圖
コロール（パラオ列島）
（大正一四年）

200	199	198	197	196	195	194	192	191	190	188	186	185	184	183	182	181	180	179	178	177	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	160
防州若国錦帯橋図（木版）	岩木山神社略図	日本分図・白地図 北海道全圖	支那帝国地誌図 フィリップ・ド・ブレット	大清一統輿図 中巻・中・東（北京近傍）	ニューリンベルグ年代記の世界図（二四九三年）	ランジーンの日本図 （一九五八年）	下総国銚子全図 （昭和三年）	豆州修善寺温泉細見	万国地誌略暗射訳図（亜細亞州） （二四五九年）	撰州須磨浦、一ノ谷真景細見	官板実測日本本地図 （明治一九年）	網代村	夙川区平面図 （昭和二年）	古留頓氏 大日本全圖 （大正四年）	京都鳥瞰図 （明治二七年）	日本西部及支那朝鮮之全圖 （明治二七年）	下田町 （明治一九年）	二見浦真景之図 （明治三三年）	京都及附近光景全圖 （明治三五年）	信州御嶽神山図面 （大正四年）	皆神山全圖 （昭和五九年）	新版無筆重宝都道府県 （昭和五九年）	ペランの蝦夷・千島図 （二七五二年）	越後国絵図 （江戸末期）	神岡町鳥瞰図（吉田初三郎） （明治一四年）	金刀比羅山全圖 （明治一四年）	秋田県能代港真景及水戸浅淵山信号 （明治三九年）	秘密特設地区図一覽表 （明治三九年）	地球万国精疎分全圖説 （明治三三年）	日本鉄道路線図 ウラ時刻表 （明治三三年）	大阪案内独巡り （万延一年）	大日本三景 丹後国天橋立正絵 （明治三一年）	河内国讃良郡清竜山瀑布及地景略図 （明治三一年）	北海道假製五万分一図一覽表 （明治二九年）	千歳 （明治二九年）	那須湯本温泉の図 （文久二年）



万国輿地略図（第130号添付図）



*この案内は本書発刊時 のものです。
(大空社 1993 年)

ニュールンベルグ年代記の世界図（第195号添付図）

古地図のインパクト!

第13巻8号(通巻152号)

(第三種郵便物認可)

月刊古地図研究

昭和57年10月1日



(カット解説)
初三郎の世界 (1) — アールヌーボー式鳥瞰図

師橋 辰夫

初三郎の世界は道中図形式の横長の画面一杯に多視点よりみた描写をコンパクトにまとめ上げた中に生々といひける。飛行機に乗って低空飛行、否、中空飛行で景色を眺めて行く観がある。これは特に沿線名所図絵の際にいかなくその移動視点の楽しさを発揮する。旅客航空が今日のように発達せず、一般人が搭乗することなど夢にも考えられぬ時代にこの様な観景的視点を見出した炯眼には恐れ入る。即、単なる地図のダイヤグラムの立体展開でなく、また単独視点による鳥瞰描写でないところが真骨頂である。

彼の大正・昭和初期の全盛時代を考えると現在の初三郎評価は余りにも低いというより、無視されすぎているのではないかと思われる。もっとも当時であっても、浮世絵・日本画・洋画の如き芸術性がないと言うので、美術愛好家の間では評価されなかったようであるが、初三郎の求めているものは「大正広重物語」・「如何にして初三郎式鳥瞰図は生れたか?」にうたったように如く民衆芸術であったので、一部特権階級の道楽としての絵画ではなかったのである。



- 2 -

■組見本 (縮小) *本内容見本に掲載した古地図はすべて縮小しています。

主な収録論文

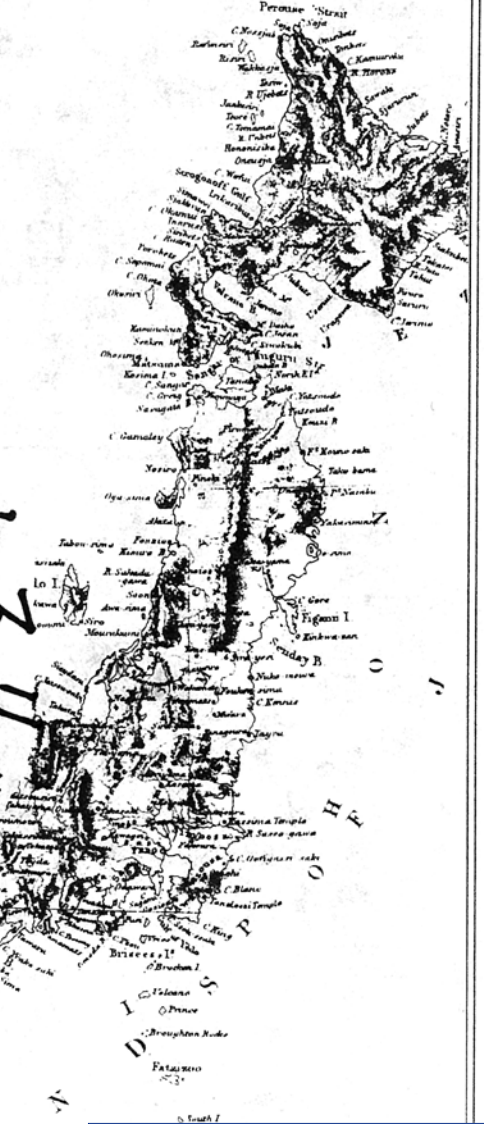
古地図としての五万分之一地形図 師橋辰夫	第1号
明暦江戸図略考 磯部鎮雄	第20号
大日本鉄道線路全図によせて 中川浩一	第30号
明治以前に作られた海図 長谷川和泉	第36号
大阪の古地図 岩田豊樹	第43号
明治の京都地図—洛中洛外と御土居 大塚隆	第60号
道中図による中山道宿間里程数調 池田直一	第69号
安永江戸図について 飯田竜一	第74号
気象庁図書館所蔵古地図について 土屋巖	第79号
水の都と浪速の八十島考 木村邦男	第85号
こんびら絵図について 田中良三	第89号
鶴屋町異聞—鶴屋町はなぜ消えたか— 湯口誠一	第99号
「洛中図に現われたキリシタン遺跡と南蛮寺について」(一) 石田孝喜	第102号
京の一覧図について 矢守一彦	第103号
地図と道路文化 長久保光明	第107号
中国辺境部の古地図の信頼性—ロブ・ノール問題を中心として— 保柳睦美	第109号
江戸の名主の住居(嘉永を中心に) 中村静夫	第124号
アロースミスの太平洋図帖 海野一隆	第133号
第五回上方(京都)例会、講演要旨「女人国物語」 磯田武雄	第139号
大型日本地図神鏡の拓本 南波松太郎	第142号
(添付図解説) 人力車地図と人力車関係資料 佐藤達一朗	第148号
初三郎絵図成立の時代背景 大塚隆	第150号
伊能忠敬の阿波測量記事 石原侑	第163号
『本邦西北辺境水陸略図』の異版 堀内立三	第166号
本邦初出 司馬江漢作の地球儀 師橋辰夫	第168号
都市図屏風の源流について 高橋正	第170号
現存した慶長・天保・元禄筑前国絵図 川村博忠	第172号
新板絵図皿と新々板地図皿 南波松太郎	第179号
異版北海道20万分1実測地図 畚野剛	第180号
ちぢみ地図とひろがり地図—バノラマ地図考— 堀淳一	第182号
「東海道路之図について」に関して 三好唯義	第192号

古地図の作製目的などの謎解きに迫る興味深い論文の数々!



■本書の特色

- わが国で唯一の「古地図研究」の研究団体「日本地図資料協会」の機関誌。
- 今日の「古地図ブーム」のなかで、先駆的な冊子であり、最大の重要文献。
- 古地図とは、ビジュアルに、リアルに歴史の断面が遺されている貴重な史料。古文書などの文献だけでは知ることができなかった、時代の息吹、歴史の貌を鮮明に伝えている。
- 会員は学者、サラリーマン、事業家とその職業は千差万別。それぞれの立場から自由な視点、発想から「古地図」を研究し独創的で優れた論文が多く生まれている。
- 毎号の添付・古地図は現物に忠実に再現（一七六枚収録）。しかも一般には見られない、埋もれている古今東西の貴重な古地図を原寸収録。
- 海外の注目度はナンバー1 ハーバード大学、エール大学（アメリカ）、ロンドン大学（英国）、ブッフ大学（ドイツ）などから定期購読されている。
- 別巻には海野一隆（大阪大学名誉教授）、師橋辰夫の解説、主題別目録、総目次、著者名索引を掲載。
- 『月刊古地図研究』を全号所蔵している機関はほとんど無いに等しい。



古地図で



*この案内は本書発刊時のものです。
(大空社 1993年)

添付古地図176点は圧巻。
先駆的な論考も多数あり。ビジュアルに
刺激的に古地図の世界を体験！

古地図の想像力を満喫する稀覯の機関誌

古地図研究



◎監修 日本地図資料協会 (会長師橋辰夫)

全6巻・別巻1〈分売不可〉

揃定価(本体 145,631 円＋税)

残部
数組

◎造本 B5・上製角背・函入

(2024.1)

◎巻構成

創刊号 [1970年(昭和45)3月] から第200号
[1986年(昭和61)10月] まで収録。

第1巻 [創刊号～第40号]

第2巻 [第41号～第80号]

第3巻 [第81号～第120号]

第4巻 [第121号～第160号]

第5巻 [第161号～第200号]

第6巻 [古地図編(添付図をまとめて収録)]

別巻 [解説・主題別目録・総目次・著者名索引]

◎解説者

海野一隆 (大阪大学名誉教授)

師橋辰夫 (日本地図資料協会会長)



*この案内は本書発刊時のものです。
(大空社 1993年)

○お断り○ 本の状態について
本叢書は刊行年が古いため、一部に函・表紙・小口等に経年劣化
が見られますが、本文は概して良好で閲覧に支障ありません。

お取扱い

資料に命のちを
作品に心こころを
形にして伝える。

学術資料出版

大空社出版

TEL:03-5963-4451 FAX:03-5963-4461
eigyo@ozorasha.co.jp
東京都北区中十条 4-3-2 (〒114-0032)